

新型コロナウイルス・ワクチンで人体実験が大規模に進行している。臨床実験中の新型ワクチンは、従来のワクチンとはまったく接種の仕方が異なる。

従来のワクチンは、弱毒ウイルスや死んだウイルス、あるいは遺伝子組み換え技術で作った抗原を接種し、体内で抗体を誘発してきた。それに対して今進められている新型ワクチンは、ワクチンそのものを作るのではなく、遺伝子を人間の体内に入れ、体内で抗原を作らせ、抗体を誘発する方法がとられている。これはこれまで遺伝子治療以外では行なわれてこなかった、つまり人間の遺伝子組み換えにあたるものだ。接種そのものが人体実験にあたり、人権侵害といえる。

開発に取り組んでいるのは、ほとんどが多国籍企業だ。背景にはバイオテクノロジーの急速な発達と、短期間で開発できること、加えて各国政府が開発企業を後押しし、開発競争を繰り広げていることがある。

## アストラゼネカ 治験中止するも即再開

しかし一方で、臨床試験の段階でワクチン開発の中止・中断が相次いでいる。

まず問題になったのが、英国ア

# 世界各国で加速するワクチン開発 競争激化で“人体実験”進む

全世界で新型コロナウイルスへの新型ワクチンの開発が進められています。しかし多くの異常が報告されており、今の状態は大規模な人体実験が進行しているのと同じです。



## 天笠 啓祐

ストラゼネカ社がオックスフォード大学と共同で開発を進めているウイルスベクター・ワクチンだ。

このワクチンは新型コロナウイルス対策で失態を演じたジョンソン政権が起死回生を狙い強力に後押しし、ほとんど審査を経ない状態でいきなり臨床試験を許可した経緯がある。

ウイルスベクター・ワクチンとは、ウイルスに抗原蛋白質を作る遺伝子を組み込んで接種するもので、風邪を引き起こすアデノウイルスなどが用いられる（英国の場合はチンパンジー・アデノウイルスが用いられている）。これまでのこの種のワクチンで承認されたのは、エボラ出血熱を対象にしたものだけだ。日本政府はアストラゼネカ社との間で6000万人、2回接種の計1億2000万回分の購入契約をしている。

このワクチンは、開発を急いだツケが臨床試験での異常発生につながり、試験が一時中止に追い込まれた。治験者の1人に、痛みやしびれをもたらす横断性脊髄炎が発生したのである。しかし、本来ならば十分に安全性を確認すべきであるにもかかわらず、横断性脊髄炎とワクチンとの関係がわからないまま、英国での試験はわずか1週間の中断で再開され、日本などでの治験も再開された。

## うまくいっていない米国、 まったく闇のロシア

米国ジョンソン&ジョンソン社が、ベルギーのヤンセン・ファーマシテイカル社と共同開発しているウイルスベクター・ワクチンもまた、臨床試験で異常が起き、日本も含めて治験を中止している。このワクチンのベクターには、アデノウイルス26型が用いられている。同社は「説明できない」異常が起きたとしているが、詳しい説明は行なわれていない。

米国イノビオ・ファーマシューティカルズ社が開発中のDNAワクチンについても、米国政府FDA（食品医薬品局）が複数の問題点を指摘し、臨床試験を差し止めている。DNAワクチンとは、抗原蛋白質を作る遺伝子のDNAを人工合成し、プラスミド（核外遺伝子）に乗せて接種する。この方法で接種するワクチンで、これまで承認されたものはひとつもない。

ファイザー社のワクチンはmRNAワクチンだ。抗原蛋白質を作る遺伝子のmRNAを人工合成し、脂質ナノ粒子などに閉じ込めて接種する。このワクチンも、日本政府が6000万人分の購入を契約している。しかし、これまでに承認されたmRNAワクチンはない上に、mRNA自体すぐに分解す